# 岩屋中だより

令和５年７月１０日　ＮＯ７
発行　長崎市立岩屋中学校
文責：校長　川口　猛

## 梅雨末期の大雨。長崎も例外ではなく・・・7･23 長崎大水害・・・

ここ数週間、長崎だけでなく、九州北部および山口県で、大雨が降っています。最近は、気象情報の精度も上がって、線状降水帯などの発生予報がでたり、警報だけでなく、特別警報の発令など気象の状況に応じて、細かく情報が発信されています。

梅雨末期は、今に限らず、以前から大雨が降ることはよく知られています。長崎市では、昭和５７年（１９８２年）７月２３日に長崎大水害が起こりました。今から、４１年前の出来事です。長崎市では、午後１０までの３時間で、３００ミリを超える豪雨となり、長与町役場では、午後８時までの１時間に１８７ミリの雨を計測し、１時間雨量としては日本観測史上最大となっています。土石流や山崩れなどが各地で発生し、国道３４号線の寸断など長崎県では、多くの犠牲者と被害をもたらした水害でした。皆さんが、知っている眼鏡橋も、中島川の増水により石垣が崩れてしまいました。一晩で、２９９名の方が亡くなるという未曽有の災害でした。生徒の皆さんが生まれる前の出来事なので、聞いたことはあるけど、よく知らない・・・・という人も多いかもしれません。

梅雨末期の大雨は、私たちにとって、関係ないでは済まされない自然災害だと私は感じています。

次に記すことは、災害に備えたり、災害時に注意をするべきことの一部です。この機会に、ぜひご家庭でも調べてみましょう。（あくまで一部です。すべてではありません。）

○防災に係る無線や長崎市のホームページなどで情報を収集する。

○**防災マップ（ハザードマップ）で住んでいる地域を確認しておく。**氾濫危険、土砂災害の危険がわかります。長崎市のホームページから見ることができます。社会科では、日本の気候や日本における自然災害を学習する時に、防災マップ（ハザードマップ）がでてきます。

○氾濫の危険性がある河川や用水路には近づかない。

○道路では、大量の雨水が下水管に流れ込み、マンホールのふたが浮き上がったり、ふたが外れてしまうこともあるので、冠水した道路には要注意です。

○地下や半地下では、浸水によって、逃げ遅れることがあるそうです。気をつけましょう。

災害に備えてできることや災害時に注意をすることの一部を紹介しましたが、**災害は、家庭で過ごしているときだけ起こるというものでもありません。また、豪雨だけが災害でもありません。**常日頃から、災害に起こった時にどう行動するかを考えておくことは、災害から身を守るうえで大切なことだと感じます。

長崎大水害の様子について、写真で紹介をしたいところですが、著作権のこともあり、写真掲載はしません。ぜひ、長崎で起こった水害について調べてみてください。なお、昭和３２年（１９５７年）には、諫早市で大水害が起きています。私たち九州地方は、常に豪災害を受けやすい地域であることを忘れてはいけません。